



ふるさとの思いを胸に  
〜 広野小・中学校を再開〜

3月11日に発生した東日本大震災および福島第一原子力発電所事故の影響により、一度は離れはなれとなった広野小・中学校の友達でしたが、いわき市内にある小・中学校の一部を利用しての学校が再開しました。  
再開が決定するまでは、長引く避難生活や慣れない環境での学校生活に、苦勞もたくさんされてきたと思います。  
そこで、いわき市内で広野町の友達と一緒に勉強や運動ができる喜び・感動など小・中学生の思いを伺いました。



遠藤 勇志くん  
(中央台・2丁目)

広野小学校 6年生

ぼくは、3月11日の大震災を通して、本当に大事なものが分かったような気がします。  
それは「友達」です。

広野の友達にずっと会えず、さびしかったです。

しかし、今は毎日友達に会えます。

一緒に勉強をし、遊び、笑い合えます。

そんな当たり前のような毎日が楽しくて、すごくうれしいです。

そんな毎日が送れる今、ぼくはとても幸せです。



小松 愛里さん  
(上北迫・北ノ内前)

広野中学校 3年生

大震災から約半年という時間を経て、広野中学校が再開を果たすことができたことを本当にうれしく思います。

また、広野の友達と共に学ぶことができることへの感謝の気持ちを忘れずにいたいと思います。

これからも広野中学校の生徒の一員としての誇りと自覚を持って、協力し合いながら学校生活を送りたいです。

編集後記

広野町の海岸に足を向けてみた。  
凄まじかったあの瞬間のできごとが思い出され、今日までのさまざまな思いが脳裏をよぎる。  
しかし、今は何もなかったかのように穏やかな波が打ち寄せていた。  
多くの人が原子力災害で避難している中で、数多くの人が美しい山河、故郷「広野町」の復興に向けて鋭意努力している。

町民一人ひとりが、それぞれの立場でがんばっている。  
我々議員も襟を律して日々精進し、英知を結集し広野町帰還へ一丸となつて取り組んでいる。

(渡邊正俊)

- 発行・編集責任者 議長 坂本紀一  
委員 長 中津伸一  
副委員長 渡邊正俊  
委員 鈴木紀昭  
委員 鈴木正範  
委員 渡辺久長  
委員 塩 史子  
委員 遠藤 智

次の定例会は12月です

